

二〇二二年六月二五日

睡蓮を掻き分け進む鯉の鱗
蛞蝓の銀の道あり力石
新樹光刎ねる峰の大風車
籐椅子に座せば昭和の匂ひあり
農小屋のトタンうるさき戻り梅雨
素つぴんといふといへども日焼止

満天
凡士
智恵子
宏虎
素秀
こすもす

二〇二二年六月二四日

幾十年経つも伝へんひめゆり忌
糶果てて人気なき市朝涼し
ウクレレの音色涼しきカフェテラス
軽梟の子の横断をまつトラクター

明日香
凡士
せいじ
むべ

二〇二二年六月二三日

初孫の花嫁姿目に涼し
母の忌を修して父の端居かな
濃淡を一筆に描く墨涼し
万緑や古りて褪せたる鳥瞰図
水辺なる箸墓古墳初螢

こすもす
なつき
凡士
豊実
明日香

二〇二二年六月二二日

万緑が押し上げてをる仏舍利塔
露天湯へ長き外廊風涼し

はく子
素秀

二〇二二年六月二二日

モビールの揺るる窓辺の風涼し
断捨離に迷ふ一書や桜桃忌
テニス打つコートに空にいわし雲
飯盒の焦げを磨けば河鹿鳴く
あめんぼう雲のじゅうたん跳ぶごとし

あひる
もとこ
ぽんこ
豊実
やよい

二〇二二年六月二〇日

立葵子らのお遊戯見え隠れ
朝涼や中州飛び立つ鷺の群れ
夏袴のぞく素足にかかるただこ
大夕焼背負ひ吊橋わたりけり
斑紋は汗の染みかも力石
大き蟻尊徳像の本を這ふ

智恵子
菜々
むべ
凡士
うつぎ
やよい

二〇二二年六月一九日

楊梅の口にしばらく遊ぶ種
鏡池梅雨の雲分け亀の首
夏サラダビタミン色を重ね盛る
栈橋に渡舟を待てる白日傘
校門は城の遺構や楠若葉

素秀
やよい
たか子
智恵子
凡士

毎日句会みのる選・二〇二二年六月二七日